

令和5年度 学校教育目標等

1 校訓

「礼・知・信」

- ※儒教で説く五常より引用
- 礼・・・人の世に秩序を与える礼儀礼節
知・・・人や物事の善悪を正しく判断する知恵
信・・・心と言葉、行いが一致し、嘘がないことで得られる信頼

2 学校教育目標

- (1) 礼儀正しく、誰に対しても敬意と感謝の気持ちを持ち、自分を律して節度ある行動がとれる人
- (2) 主体的に学び、探究をとおして物事を論理的に考え、正しい判断ができる人
- (3) 豊かな心で人を思いやり、有言実行するたくましさを持ち、周囲から信頼される人

3 スクールミッション

- (1) 地域の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来を創っていく生徒の育成
- (2) 郷土を愛するとともに、地域産業の持続的な成長を担う職業人に求められる資質・能力を身に付けた生徒の育成
- (3) 海外農業視察研修をとおして、国際情勢に関する認識を深め、グローバルな視点で農業問題の解決を目指すとともに、実社会で活躍できる生徒の育成
- (4) 中学校教育との接続を踏まえ、集団生活や特別活動等を通じて、コミュニケーション能力や豊かな人間性を身につけた生徒の育成

4 スクールポリシー

- (1) グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）
～何ができるようになるか～
 - 1) 農業における実験・実習やプロジェクト学習をとおして、基礎となる知識や技術を身につけ農業の振興や社会貢献に主体的に取り組むことができる能力
 - 2) 探究的な学習をとおして、主体性や課題解決能力を養い、試行錯誤しながら粘り強さと柔軟な発想で課題を解決していける能力
 - 3) 多様な人々との対話や協働を通じて、人を思いやり、他人を尊重しながら、コミュニケーションをとり、新たな価値やよりよい社会を創造していける能力
- (2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
～何を学ぶか、どのように学ぶか～
 - 1) 共通教科と農業教科に関する基本的な知識や技術を探究的・対話的・横断的要素を多く取り入れながら学び、社会で通用する実力をつけるための教育課程
 - 2) 観点別評価の結果を生徒にフィードバックし、評価の結果が次の学習意欲につながり、生徒の主体性や課題発見力の育成につながる教育課程
 - 3) 地域や関係機関と協働や体験学習を積極的に取り入れ、自らの可能性や社会貢献意識を高め、多様な進路選択ができる教育課程
- (3) アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）
～どのような生徒を求めているか～
 - 1) 動植物や農業を中心とした関連産業に興味を持ち、自らの目標を創り出し、探究しながら実現に向けて努力できる生徒
 - 2) 地域や学校での暮らしをとおして、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）を理解し、自他の生命尊重や他人への思いやりをグローバルな視野で持とうとする生徒
 - 3) 日常のあらゆる場面をキャリア形成の場と捉え、GROWTH MINDSET（自分の成長は経験や努力によって向上できるという考え方）を身につけようとする生徒

5 経営方針

生徒一人一人を大切に、保護者や地域社会から信頼される学校を目指す。(生徒のために、地域のために、未来のために)

- (1) 教職員の創意工夫と経営参画意欲に基づく協働体制のもと活力ある学校運営の推進に努める。
- (2) 基礎・基本の確実な定着を図り、思考力・判断力・表現力を育成する学習指導の充実に努める。
- (3) 生徒理解の深化を図り、多様な生徒の状況に応じた生徒指導の充実に努める。
- (4) 系統的なキャリア教育を推進し、生徒一人一人に応じた進路指導の充実に努める。
- (5) 時代の要請に対応した農業教育を推進し、地域の発展に貢献できる産業人の育成に努める。
- (6) 地域・保護者との連携に基づく地域に根ざした学校づくりの推進に努める。
- (7) 働き方改革によりインプットと研修活動を充実させ、教職員の資質・能力の向上に努める。

6 重点目標

- (1) 農業教科内において、プロジェクト学習や実験等の考察を要する内容を強化し、探究する力や判断する力を育てる。
- (2) 生徒の発達段階に応じた指導と観点別評価を行い、評価内容を還元することで、漠然とした苦手意識から、具体的な改善箇所を認知できるような丁寧な指導を行う。
- (3) 寮生活も教育の場と位置づけ、学校での指導と統一性を図りながら、基本的生活習慣や集団生活のルールを身につけさせ、自ら考えて適切な行動がとれるようにする。
- (4) いじめの定義をしっかりと認識し、組織的な対応と積極的な認知で重大事態を防ぐとともに、再発防止策を徹底し安心安全な教育環境を作る。
- (5) 地域のスペシャリストとの連携や地域課題を教材として、学校農業クラブ活動、生徒会活動、部活動などによる教育効果を高める。
- (6) 社会で求められる人物像や能力を把握し、日々の活動全てをキャリア教育の場と捉えながら、進路活動を充実させる。
- (7) 業務環境を整備し、「働き方」改革を推進させることで、教職員間のコミュニケーションやインプットを強化し、生徒と向き合う時間や様々な危機に対する未然防止対策を向上させ、生徒の安心感を高める。

7 指導上の重点事項

学習指導	(1) 教師自らが探究する姿勢を持ち、ICTを積極的に活用し、指導技術を向上させることで、わかりやすく説得力のある授業を実現する。 (2) 1年次から対話的・主体的・横断的授業により探究学習に必要な能力を身につけさせ、3年次に実施する一人一課題による探究学習で、思考力・判断力・表現力の強化を図る。 (3) 観点別評価法による学習評価の改善・充実を図り、指導と評価の一体化を実践するなかで学習意欲の向上を図る。 (4) 「働き方改革」を推進し、教員がインプットや教材研究に割く時間を確保するとともに、校内研修や初任段階研修の充実を図り、教師力を向上させる。 ＜農業学習＞ (1) 地域農業の実態や国際的な視野で農業教育を見直し、地域や関係機関・企業等との連携を図りながら高品質な農作物や加工品の生産についてスピード感をもって実践する。 (2) 単元一覧表を作成し、計画的に実験実習を設定し、探究学習を充実させるための調査力・思考力・判断力・発表力を段階的に身につけさせる。 (3) 生産から加工・流通までの全てを体験させ、厳しいコスト意識と主体的な生産工程管理(GAP)を実践するとともに、教科間での横断的指導を図りながら起業家精神の育成を図る。
------	--

生徒指導	(1) 基本的な生活習慣や健康増進を確かなものにし、産業人として社会で貢献できる心身を育てる。 (2) 日常のコミュニケーションを強化し、相談活動やサポートを充実させ、生徒の理解に努めながら社会で適応していく力を身につけさせる。 (3) 寮生活も教育活動の場と位置づけ、基本的な生活習慣や学習習慣を定着させる。 (4) 学校農業クラブ・生徒会・委員会・部活動・寮委員会等に生徒が自主的・主体的に取り組めるような指導を行い、行事や当番校業務を成功させる。 (5) いじめの定義をしっかりと認識し、積極的な認知をすすめるとともに、組織的・計画的な対応とコミュニケーション力の強化で、生徒が相談しやすい環境をつくり、重大事態を未然に防ぐ。
進路指導	(1) 生徒の活動をポートフォリオにまとめ、自らの活動や成果を実感できるようにし、何を経験し、何ができるようになったのか説明できるようにする。 (2) 学年毎の具体的なキャリア教育指導計画を作成し、一歩上を目指せる進路指導を実行する。 (3) 各種資格取得や検定等に積極的にチャレンジさせ、合格人数や合格率を向上させる。 (4) 日常のあらゆる場面をキャリア教育の場と捉え、GROWTH MINDSET（自分の成長は経験や努力によって向上できるという考え方）を身につけさせる。 (5) インターンシップや社会体験を充実させ、社会人としての正しい職業観・勤労観を育てる。
健康・安全指導	(1) 感染症に関する知識やなぜそのような対策が必要なのかを理解させ、感染症につよい学校をつくる。 (2) 交通安全・防犯・防災・性・薬物・ネットなどの教育を継続し、自ら事件・事故・災害等の危機から身を守る能力を身につけさせる。 (3) 持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）を取り入れ、グローバルな視野で自然環境の保全及び持続可能な社会形成に貢献できる能力を養う。 (4) 教職員および生徒全員が危険予知能力を高め、事故が起こる前に危険な状況を予見し、速やかに対策が取れるようにしていくことで、安全確保の確率を高める。